

邯鄲諸國物語

一一

13
3223
29



天保五年甲午春新彫

歌川國貞画



柳亭種彦作

耶 鄂 諸
國 物 語

近江の巻

前帙上

芳町角
山本平吉梓



3223
29

天保甲午春發販二編

近江卷後帙附出羽卷

種彦作

國貞画

耶 鄂 諸 國 物 語



榮久堂梓

種彦秋園物語

近江の

巻前帙下

精舎
魚



種彦諸國物語

近江の

巻前帙上



天保甲午
孟陽

國貞画

種彦作



國貞画

郭鄴

諸國

ものゆり

河の巻

前帙下

榮久堂梓

天保甲午孟春發市



耶鄴諸國

物語 近江卷 後帙上

柳亭種彦作

歌川國貞画

東都芳町角

榮久堂製本

前帙四冊より後帙と次で近江出羽二ヶ巻の物語全とす

香蝶
樓面



種彦諸國物語

近江の
巻後帙上

國貞遊



天保五年

甲午發春

種彦法園抄後

近江の巻

附 後帙下
出羽の巻

種彦作



國貞画

かゝる人蘇国
まはるがごと

近江乃卷

後帳下

附

出羽の卷

榮久堂梓

一

是繪冊子の西鶴諸國なる一一名大下馬其碩諸國物語等あるにて作す
いでいぢれは種彦諸國物語とよひるさんと思ひしが愚名と標題
小あつとさんも徑廷く取こころ無實無夢物語といふ意あり耶那の
二字小替つ双手説いづる近江の巻ハ狂賊算策と吹の話と耳食録
小事ありゆきまこと更小それを翻へ善人小あやまちなく懸想
ごちハ夫婦とあり最愛なき草紙小て是ハ出羽の巻と附前帳
後帳八冊也二箇國の舌話全く終る也

天保五年甲午開端

柳亭種彦



下
下
刀





東之
 近江の園
 鏡の病
 旅舎の娘阿加奈

下下切



盗賊の首領
 藥王次郎
 鬼門

下下切



東江の園
 八幡の町
 野田屋
 花竹屋
 子の鯉七
 鏡の病
 小波屋の
 鬼女
 阿只

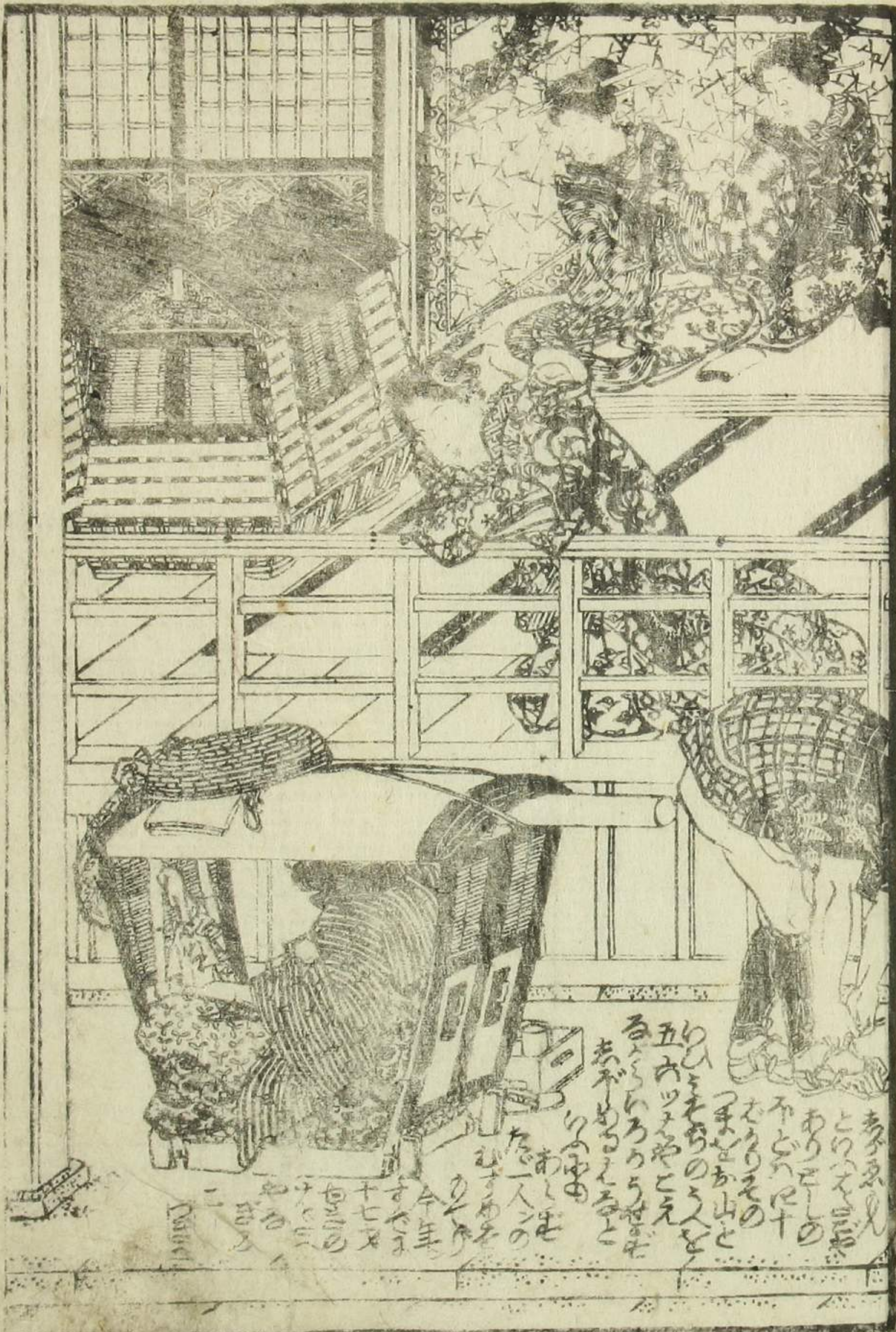
那那切



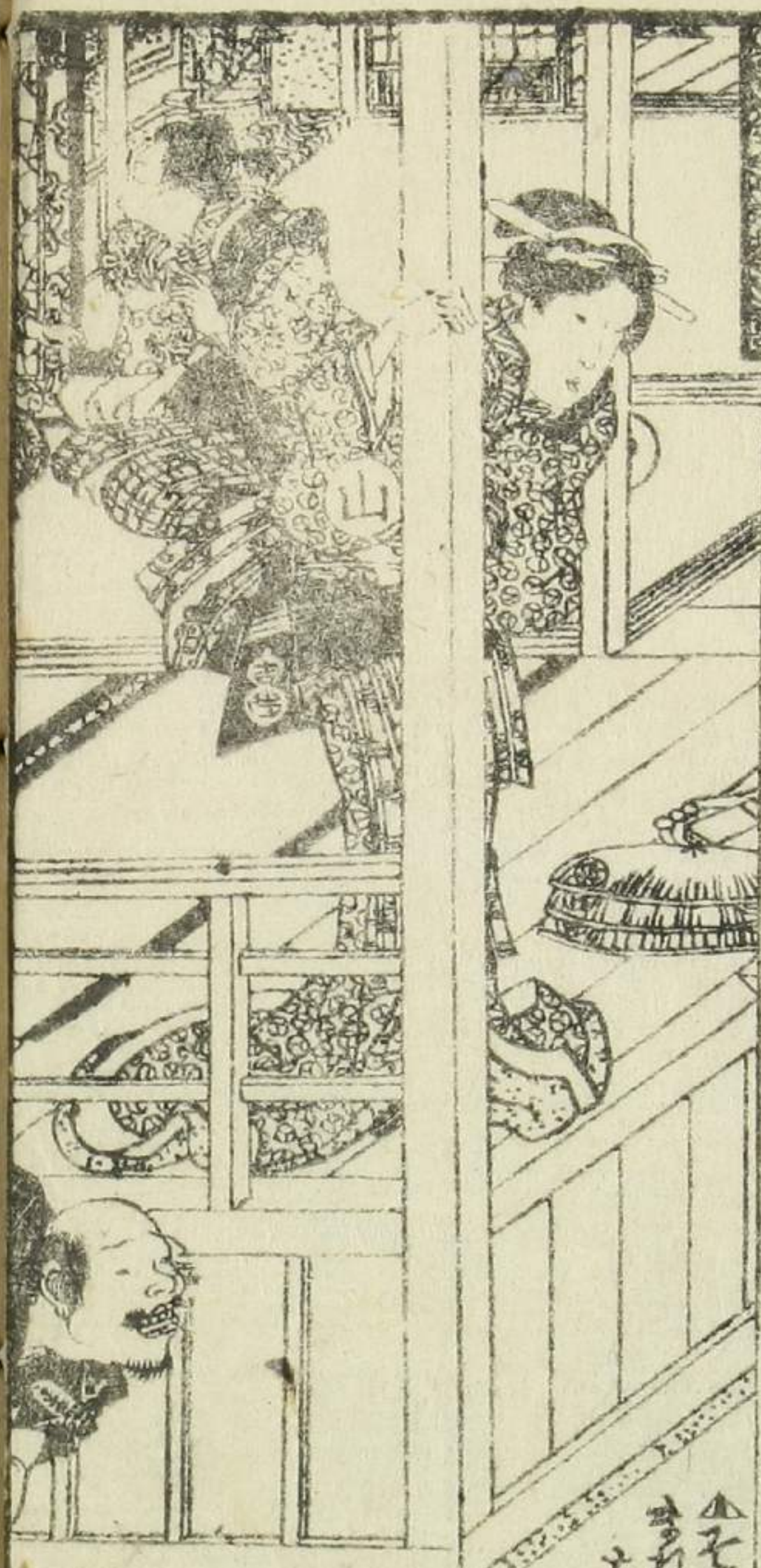
青崎
 蔵人の
 武者
 五郎
 景信
 美艶
 仙女香
 黒油香
 美家香
 他家
 無比類

京橋南一町
 十字街
 坂本氏精製

甘單



あゝあゝ
 とりてゝ
 ありて
 不だん
 むりそ
 つまは
 りいそ
 五ツツ
 るとら
 志和ら
 りのあ
 た一人
 びすめ
 のり
 今年
 すた
 十七
 右の
 けい
 なる



△そのあひま
 まれら
 若り
 わう
 あん
 を
 り
 だ
 け
 と
 が
 さ
 の
 と
 ら
 の
 ま
 さ
 の



かき山い
 中々の
 るとら
 かき山
 守山
 志

「きりくわが...」
さうらの...
あんな...
いとお...
さうら...
あんな...
いとお...
さうら...
あんな...
いとお...



「左かま...」
あんな...
いとお...
さうら...
あんな...
いとお...
さうら...
あんな...
いとお...

「きりくわ...」
さうらの...
あんな...
いとお...
さうら...
あんな...
いとお...
さうら...
あんな...
いとお...



「右か...」
あんな...
いとお...
さうら...
あんな...
いとお...
さうら...
あんな...
いとお...



此の茶室は、
 江戸の町に
 あり、其の
 趣向は、
 茶の湯の
 文化を
 示す。



此の場面は、
 江戸の町に
 あり、其の
 趣向は、
 茶の湯の
 文化を
 示す。



●ありあけのいけりや
えのたまのまがかりかかろてまの
まのひの目よえぬと(●右)

●ありあけのいけりや
えのたまのまがかりかかろてまの
まのひの目よえぬと(●右)

いさぎよのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの

下 卯 切



●ありあけのいけりや
えのたまのまがかりかかろてまの
まのひの目よえぬと(●右)

いさぎよのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの

いさぎよのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの
あけのぼのうらやまの

下 卯 切

東都錦繪所

江戸

町ちやがら橋角
山本平吉梓

永花百人一首文十抄

首書 世に名だる百人一首ありて
あやうき御書 長中とてつくまはしに
繪抄 世に名だる百人一首ありて

源氏六十四帖

小編 源氏物語

源氏物語の御書は、
源氏物語の御書は、
源氏物語の御書は、

但馬十段

はあ

御詠染逢山鹿子

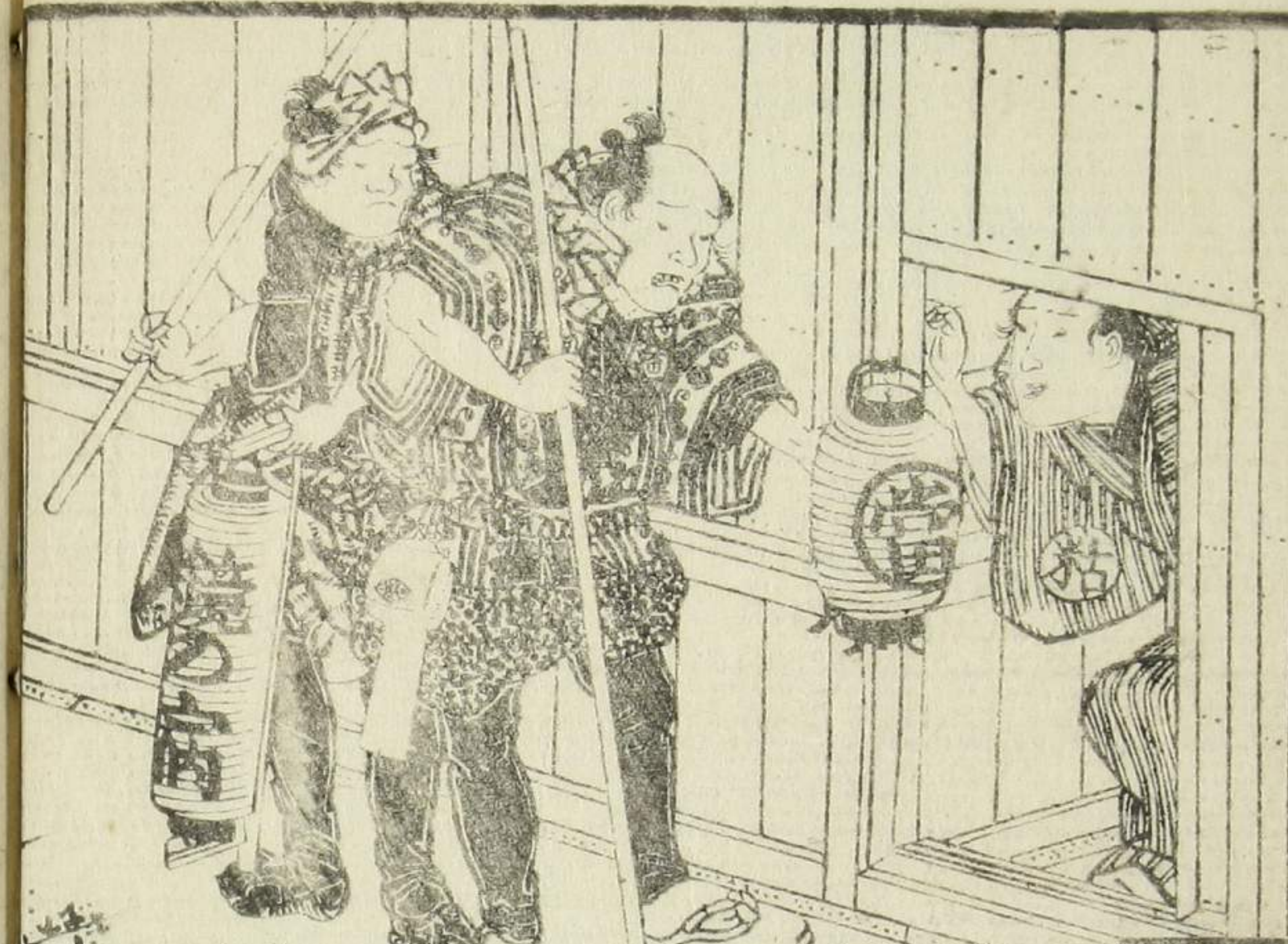
六編 御詠染逢山鹿子

御詠染逢山鹿子の御書は、
御詠染逢山鹿子の御書は、
御詠染逢山鹿子の御書は、

縁結妹脊双六

縁結妹脊双六

縁結妹脊双六の御書は、
縁結妹脊双六の御書は、
縁結妹脊双六の御書は、



國貞画種彦作

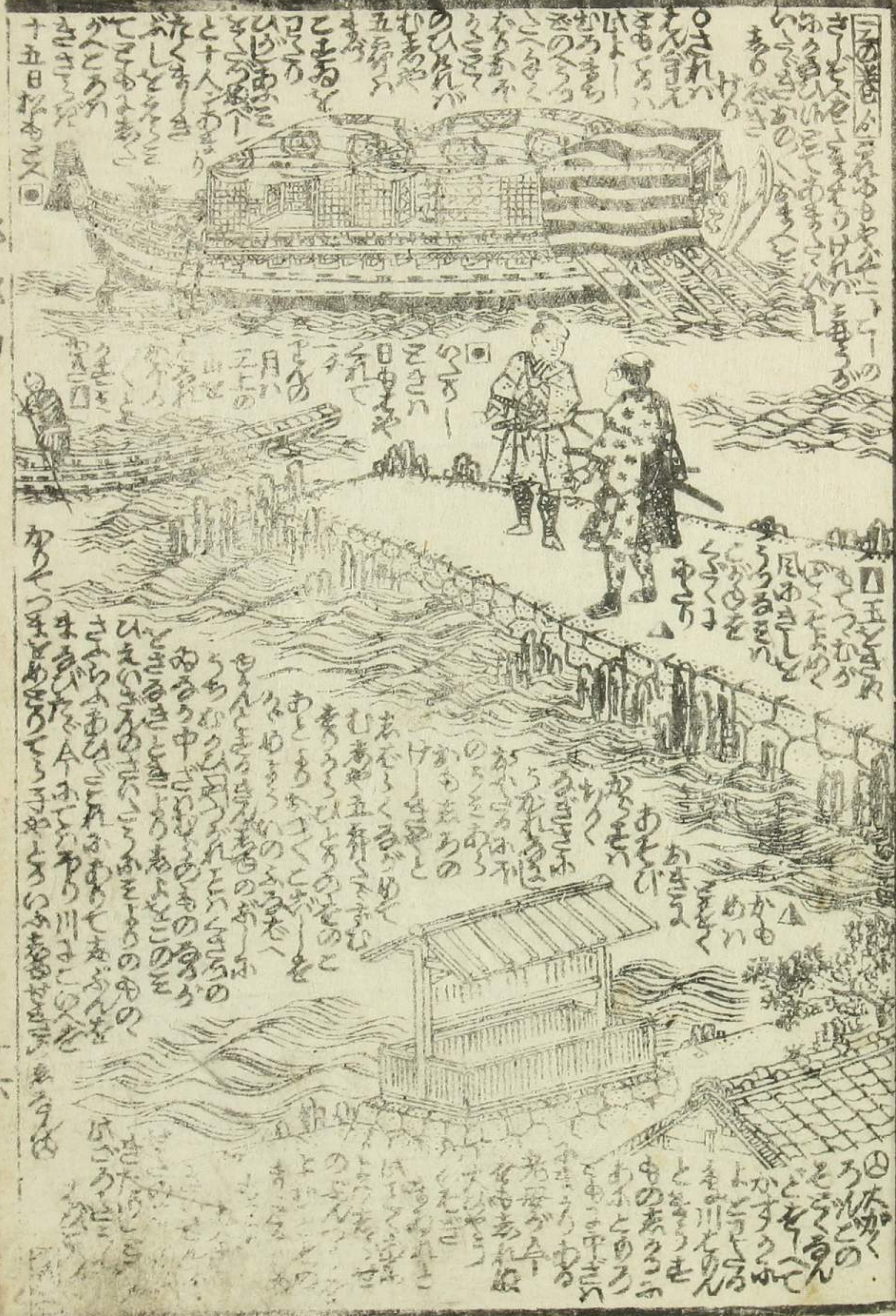
國貞画種彦作の御書は、
國貞画種彦作の御書は、
國貞画種彦作の御書は、

あつたむらやうの風ふきまわらされ
どうもいふにせぬれれども
あやかしんごやちせの人の
あつたむらやうの風ふきまわらされ
どうもいふにせぬれれども
あやかしんごやちせの人の
あつたむらやうの風ふきまわらされ
どうもいふにせぬれれども
あやかしんごやちせの人の



あつたむらやうの風ふきまわらされ
どうもいふにせぬれれども
あやかしんごやちせの人の
あつたむらやうの風ふきまわらされ
どうもいふにせぬれれども
あやかしんごやちせの人の
あつたむらやうの風ふきまわらされ
どうもいふにせぬれれども
あやかしんごやちせの人の





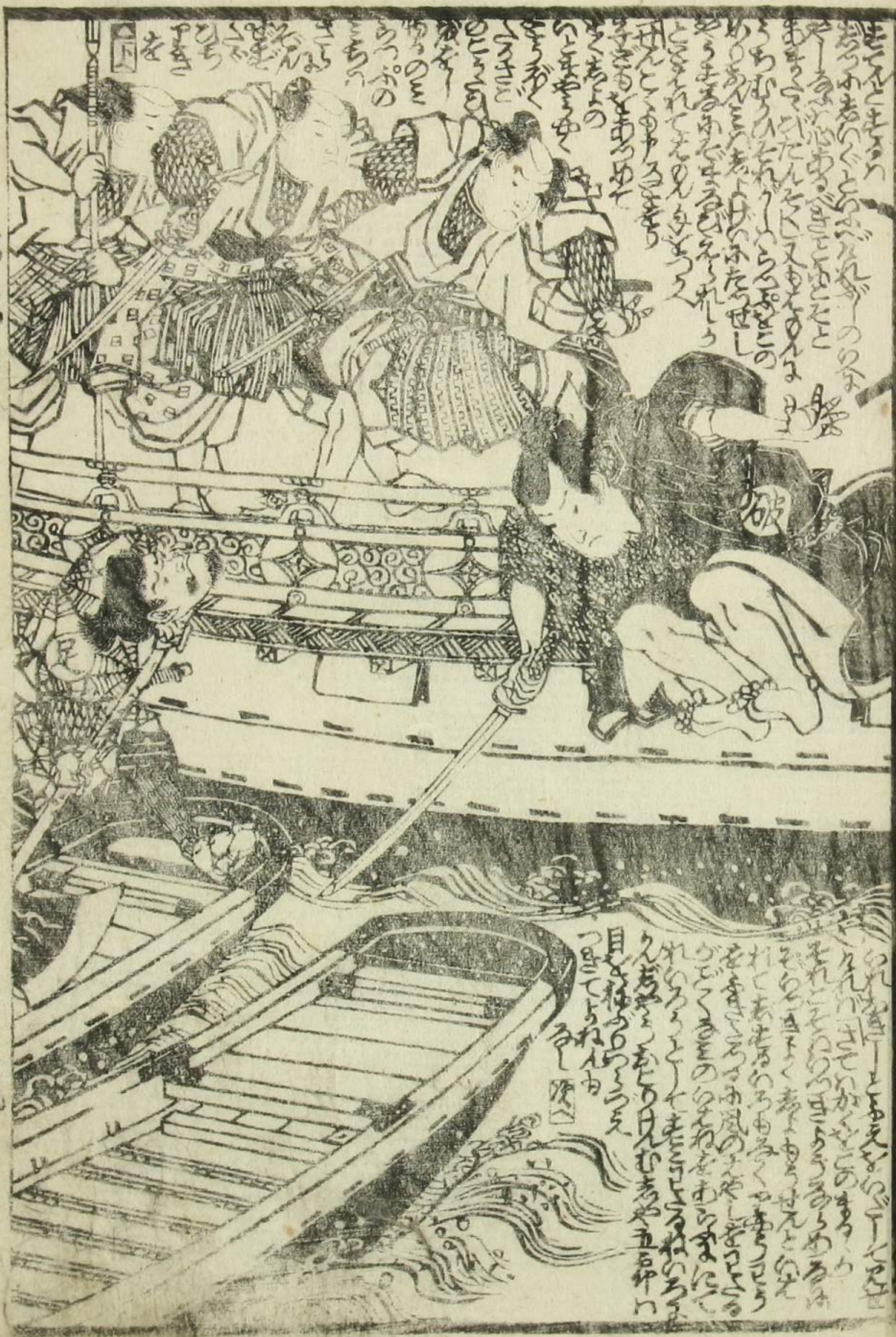
十五日松本

かりてつまどめりてり

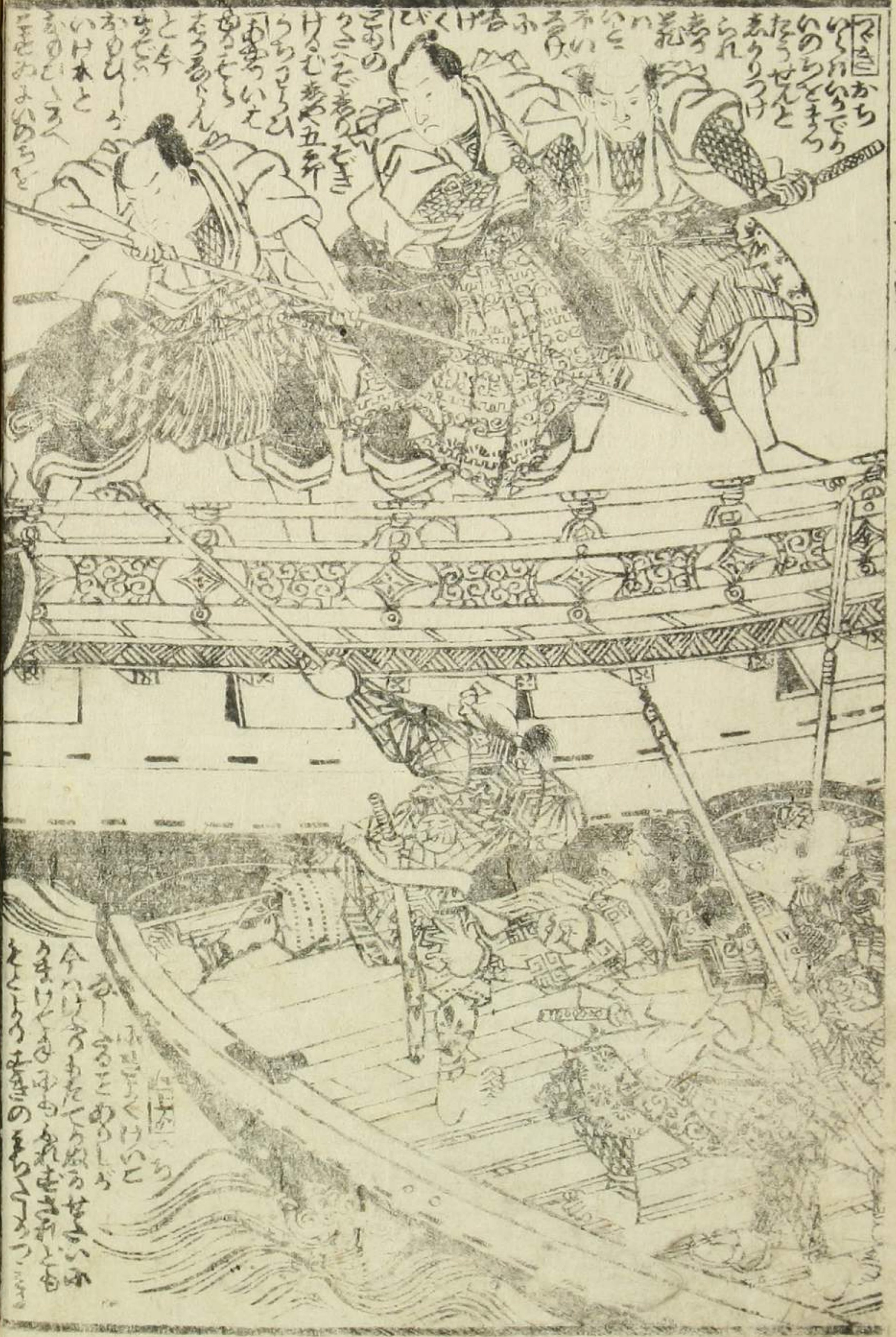


甘單

三



下
下
下



甘
単
ネ



歌川國貞画 柳亭種彦



邯鄲諸國物語

初編八編追出来 柳亭種彦作
九編十編新刻 一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃

山東庵京山作
一陽齋豊國画
新刻編

仙女香七變化粧

十返舎後一
一陽齋豊國画
二編

朧月猫のこぼし

山東庵京山作
一陽齋豊國画
六編七編

竹女一代記

五蘭齋
一陽齋豊國画
四編

妻のみよとの好紙

山東庵京山作
一陽齋豊國画
初編二編
新刻編

隅田川月姿見

式亭小三馬作
一陽齋豊國画
三編

美艶仙女香
一包四十錠
黒油美玄香
坂本氏製

榮久堂

江戸芳町親仁橋角
山本平吉版



附言

前帙發販して後表紙を有るも既に種彦及諸國

物語と記し是は書房のさうりし故勿為と

制ししが榮久堂笑つて曰隨筆漫画國語更なり

赤木中之家の化物士六利勘をよめりよる暗記

せられともわの物のことらもわの近年のなは雛文ゆえ

画人の名を題もあつた原由来童子の玩弄ゆえの

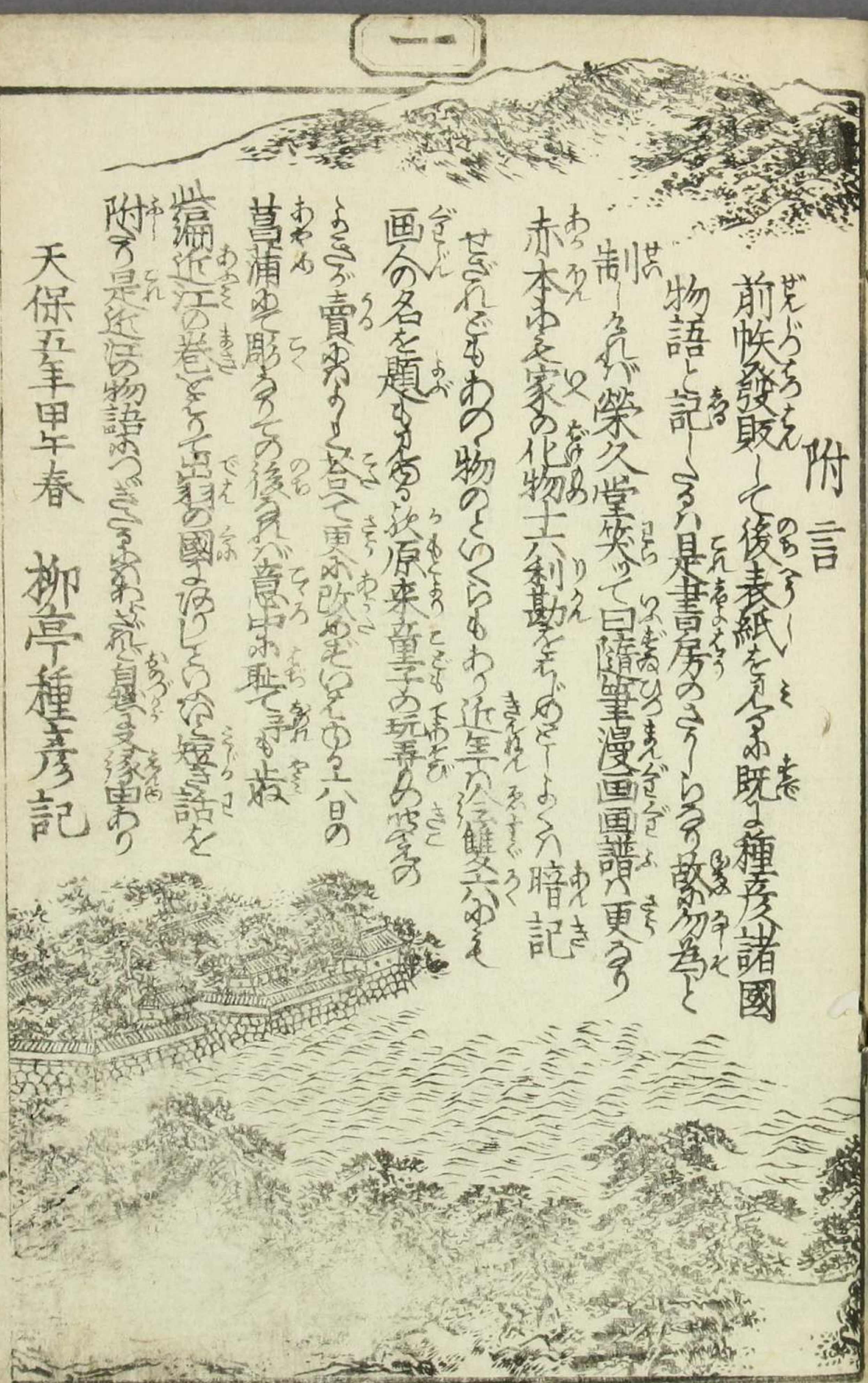
よる賣ゆゆりて答て更ぬ改めしものより日の

草浦ゆ彫りての後見か意中申してすも枝

篇近江の巻とて出羽の國ありしもの短話を

附し是は物語つてしるゆゆれ自筆ゆ縁申あり

天保五年甲午春 柳亭種彦記





阿只の
客
外原屋
倉藏

小波屋
阿加奈



小波屋の
阿只石燈籠の笠を
初めて見
かある
ふとを
知る

甘單一

白林兄弟
喜多川
はな

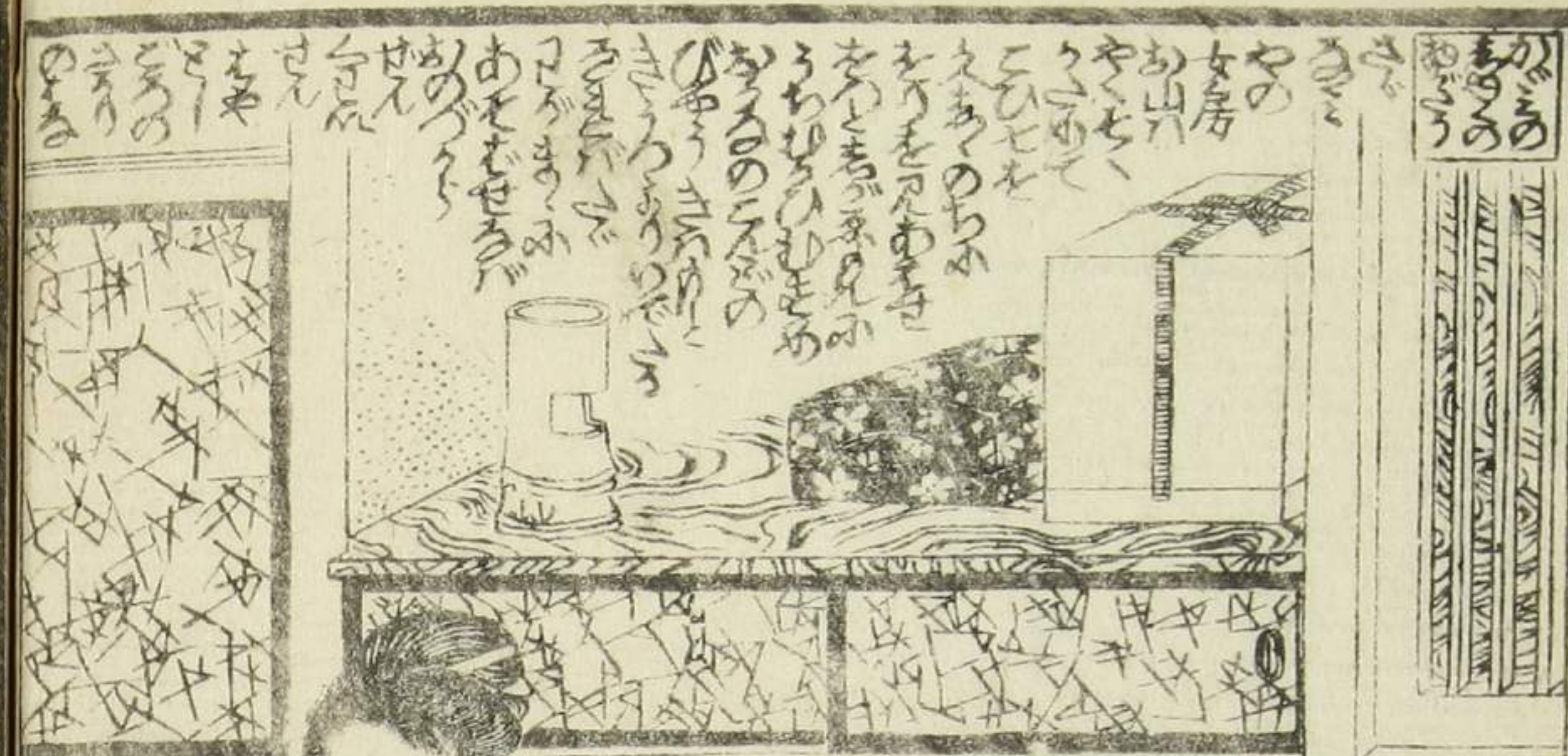


白林兄弟
喜多川
はな

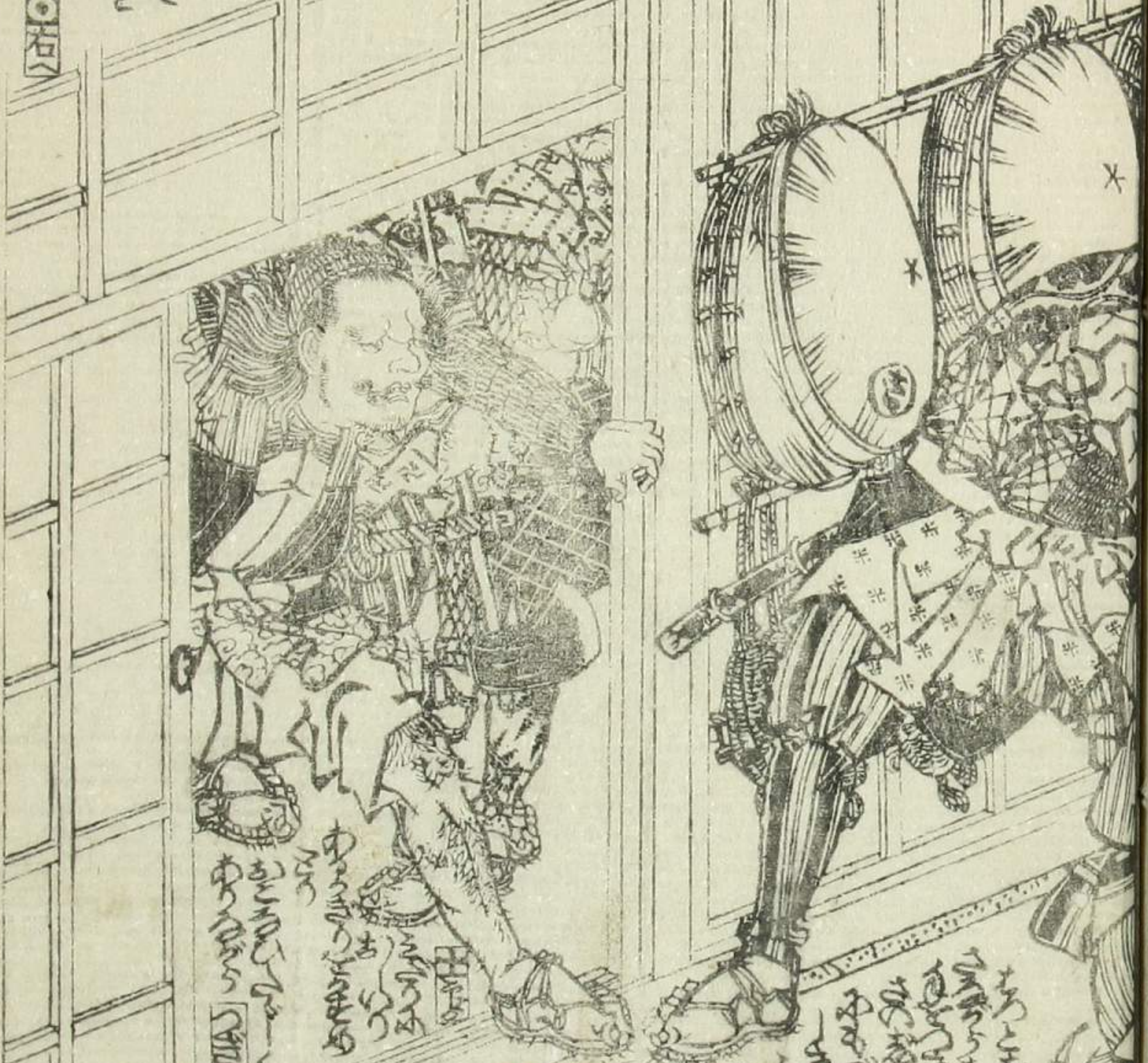
白林兄弟
喜多川
はな



白林兄弟
喜多川
はな



Handwritten text in the top left corner of the left page, including the word "The Dance" and other illegible characters.



Handwritten text in the bottom left corner of the left page, including the characters "歌舞" (Kabu).

Handwritten text in the top right corner of the right page, including the word "The Dance" and other illegible characters.



Handwritten text in the bottom right corner of the right page, including the characters "歌舞" (Kabu).

Vertical columns of handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a play or a commentary on the scene below.



Vertical columns of handwritten text at the bottom of the left page, continuing the transcription or commentary.

Vertical columns of handwritten text at the top of the right page, positioned above the main illustration.



Vertical columns of handwritten text at the bottom of the right page, continuing the transcription or commentary.

Vertical text on the right edge of the page, possibly a page number or a section title.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account, located at the bottom of the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account, located at the bottom of the right page.

國貞画種彦作

此の巻は、
 源氏物語の
 御詠染逢山鹿子
 の一場を
 描いたものである。
 源氏物語の
 御詠染逢山鹿子
 の一場を
 描いたものである。
 源氏物語の
 御詠染逢山鹿子
 の一場を
 描いたものである。



源氏物語の
 御詠染逢山鹿子
 の一場を
 描いたものである。
 源氏物語の
 御詠染逢山鹿子
 の一場を
 描いたものである。
 源氏物語の
 御詠染逢山鹿子
 の一場を
 描いたものである。

榮久堂刊行藏板略目

永花百人一首文十抄

首書
 伊勢物語の百人一首文十抄
 の一場を
 描いたものである。

源氏六十四帖

花彩
 源氏物語の
 御詠染逢山鹿子
 の一場を
 描いたものである。

御詠染逢山鹿子

六編揃
 源氏物語の
 御詠染逢山鹿子
 の一場を
 描いたものである。

源氏物語の
 御詠染逢山鹿子
 の一場を
 描いたものである。
 源氏物語の
 御詠染逢山鹿子
 の一場を
 描いたものである。

縁結妹脊双六
 源氏物語の
 御詠染逢山鹿子
 の一場を
 描いたものである。

東都錦繪所

江戸町ちやが橋角

山本平吉梓

Handwritten text in a cursive style, likely a preface or introductory text, located at the top of the left page.





Handwritten text in the top right section of the right page, including the characters '廿一' and '廿二'.



Handwritten text in the bottom right section of the right page.

Handwritten text in the top left section of the left page.



Handwritten text in the bottom left section of the left page.

出羽の巻

出羽の巻 飽海郡

鳥海山のありて

月光のありて

語代國古傳と

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

父九國のありて

出羽の国の
物がたり
あみかこ



あみかこ

あみかこ



あみかこ

あみかこ



近江の国
の物がたり
あみかこ

あみかこ

あみかこ

Handwritten text in a cursive script, likely a diary or journal entry, located at the top of the right page.

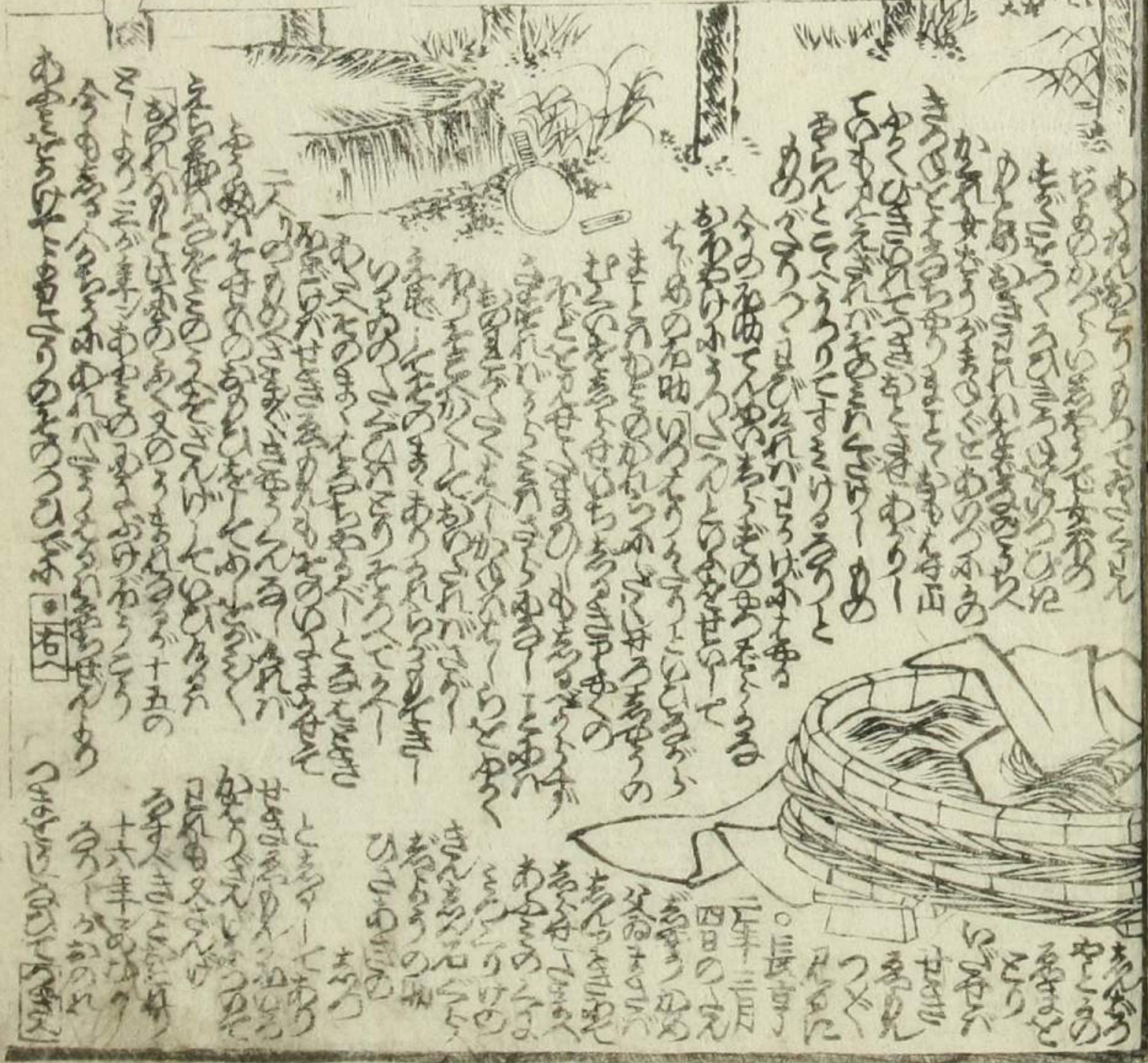


Small handwritten notes or signatures at the bottom of the right page, below the illustration.



Handwritten text in a cursive script, continuing the journal entry, located in the middle section of the left page.

Handwritten text in a cursive script at the bottom of the left page, including a signature and date.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, located at the top of the left page.

Handwritten text in a cursive script, located in the middle section of the left page.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page.

12211

Handwritten text in a cursive script, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the right page.

12211



出羽國飽海郡鳥海山 正一位 大物忌 神社

柳亭種彦作

歌川國貞画

邯鄲諸國物語

初編八編遠東柳亭種彦作
九編十編新刻一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃
山東庵京山作
一陽齋豊國画
新刻

仙女香七變化粧
十返舎後一九作
一陽齋豊國画
二編

朧月猫のこぼし
山東庵京山作
一陽齋豊國画
六編
七編

竹女一代記
二五蘭齋作
哥川貞秀画
四編

美艶のふしの紙
山東庵京山作
一陽齋豊國画
初編二編
新刻

隅田川月姿見
式真小三馬作
一陽齋豊國画
三編

美艶仙女香 一包四十錠
黒油美玄香 坂本氏製

榮久堂

江戸芳町親橋角
山本平吉版

浄書千形道文
めをいふ
かきおろ
めをいふ
かきおろ
めをいふ
かきおろ



